

JA全農ウィークリー

2
5
面

東日本大震災から10年 被災地の「これまで」「今」「未来」

6面

畜産総合情報サイト

JACCネット

刷新
(畜産生産部)



被災地の「あの時」と「今」(2～5面)

- 6 山形県産「啓翁桜」を世界へ 2カ国語の動画で魅力PR
(山形県本部)
 - 7 JAズームイン(広島:JA福山市)
 - 8 3月18～31日
「華やかな、春のはじまり。苺フェア」
開催(フードマーケット事業部)

「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」
プレゼント(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介
西のおいしさこだわりマルシェ

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

東日本大震災から10年 被災地の「これまで」「今」「未来」

2011年3月11日に発生した東日本大震災から今年で10年が経過しました。未曾有の大災害で岩手県・宮城県・福島県を中心に東日本で甚大な被害が生じましたが、被災地では地域農業の復旧・復興に向け、さまざまな取り組みが行われ、営農の再開も進んでいます。これまでの10年と今、そして未来への思いを伝えます。

農業の発展と地域の活性化を通じ被災地の復興に全力

全農経営管理委員会 会長 菅野幸雄

東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした、多くの尊い命と平穏な暮らしを奪った東日本大震災の発生から10年の年月が流れました。

ここにあらためて、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、

被災されたすべての方々に心からお見舞いを申し上げます。

被災地のJAの皆さまにおかれましては、自らも甚大な被害を受けながらも、想像を絶する状況にある組合員に寄り添い、物心両面で支え、復旧・復興に取り組んでこられました。そのご尽力に心から敬意を表する次第です。

そして、全国の系統組織などからの多くのご支援は、どんな困難であろうと、「二人は万人のために、万人は二人のために」という協同組合の基本理念を胸に、勇気と絆をもって乗り越

えていけることを私たちに教えてくれました。

被災地の復興に向けたこの10年のあゆみこそが、日本、そしてJAグループの、未来への希望であると確信しております。

本会は、震災を決して風化させず、復旧・復興から得た教訓や知見を、世代を超えて伝え続けるとともに、農業の発展と地域の活性化を通じ被災地の復興に貢献してまいります。関係の皆さまにおかれましては、引き続きご指導とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

10年前の「あの時」 全国のJAグループが被災地で支援活動



全農の永田正利会長（右、当時）は2011年3月30日、東日本大震災の被災地を訪問しました。津波に襲われ、がれきの山と化した仙台市郊外の稲作地帯を視察した永田会長は、早期の復旧に向けてできる限りの支援をすることを表明しました



宮城県の被災したJAの倉庫ではい積みの作業をする全農グループ職員（2011年4月）



水田に打ち上げられた大木を取り除くJAグループ岐阜の職員（2011年5月、岩手県で）



キュウリが植えられていたハウスに入り込んだヘドロを撤去するJAグループ石川の職員（2011年5月、宮城県で）



がれきの中に埋もれた書類を取り除く富山県JAグループ職員（2011年5月、岩手県で）



津波で水没した事業所で作業をするJA長野県グループの職員（2011年5月、岩手県で）

産地復興へあゆみ続ける 被災した各地の取り組み

岩手県田野畑村

父の思い引き継ぎ法人化
佐々木農場

県沿岸部で年間1億円目標に

津波で農地流失などの被害を受けた田野畑村。停電や断水が発生し生活が困難な中、JA新いわての職員が「農業を続けよう」と農家を励まし、農家は「食料を供給し続けることが産地の役割だ」という思いを強くしました。「佐々木農場」の佐々木剛さんの父その1人で、今



根ミツバの品質を確認する佐々木さん（左）と平坂課長補佐

は佐々木さんが父の思いを引き継ぎ、従業員と30ヘクタールの畑を耕作しています。

佐々木さんが後継者として就農した20年ほど前は家族経営で面積は5ヘクタールほどでしたが徐々に面積を拡大し、2018年に法人化。ブロッコリーやキャベツ、ダイコンなど5品目を組み合わせ、1年を通じて露地野菜を生産しています。佐々木さんはJAの担当者や県内の先進農家から情報を収集し、経営強化を図ってきました。JA新いわてや山手県本部は栽培や機械導入、経営のアドバイス、労働力確保の面で佐々木さんをサポート。同JA宮古営農経済センター米穀園芸課の平坂博喜課長補佐は「産地として新しいことに取り組むときには、佐々木さんにまづ声を掛ける」と信頼を寄せます。

佐々木さんの今後の目標は「県沿岸部で初の年間売上高1億円」。そのためには適期の農作業を着実にこなし、収穫量の高位安定化につなげたいと考えています。

宮城県山元町

被災農家、JAみやぎ亘理、全農などが出資

やまもとファームみらい野

全国有数の園芸経営法人

宮城県沿岸部の山元町は津波で1500ヘクタールの農地が冠水しました。津波被害の農地を引き受け、2015年に被災農家、JAみやぎ亘理、全農などの出資で「やまもとファームみらい野」が設立されました。

南北8キロに広がる農地は、津波で流されたがれきや鉄くずが出てくることもあり、水はけもばらばら。土を入れ替えるなどゼロからのスタートとなりました。現在、農地は110ヘクタールで、露地でネギやサツマイモ、タマネギなど、施設でトマトとイチゴを生産しています。園芸経営



当日の作業内容について打ち合わせる島田社長（右）



トマトハウス内で作業に励む従業員



サツマイモの出荷作業

の法人としては全国有数の規模で、農地管理システム「ZIGS」を活用し、効率的な営農につなげています。

社長の島田孝雄さんは「地域に育てもらった恩返しをしたい」と、人と人のつながりを大切に、地域に根差した事業を目指しています。直売所やサツマイモの海外輸出など販路チャネルを増やし経営の安定化を図りながら、新規就農者の受け入れなど地域の担い手育成にも戦略的に取り組んでいます。

産地復興へあゆみ続ける 被災した各地の取り組み



トマトの生育具合を見る青木社長



地域ブランド「サンシャイントマト」の選別をする
県内沿岸部から雇用した従業員

福島県楢葉町

廃業したトマトの養液栽培プラント再生

ナラハプラントファクトリー

大型施設活用し雇用を創出

津波被害と東京電力福島第1原発事故で大きな被害を受けた楢葉町。震災後、廃業した企業から町がトマトの養液栽培プラントを譲り受けて修繕し、生産者を公募しま

した。そこで手を挙げたのが、当時いわき市で水耕トマトを生産していた青木浩さんです。「元住民に戻ってきてほしい。農地を守り、活性化させたい」と、大型施設を活用して雇用を創出しようと考え、20年に「ナラハプラントファクトリー」を設立しました。法人設立の手続きや生産資材の供給、販路の開拓などで、JA福島さくらや福島県本部が支援しています。

現在は、町内だけでなく県内沿岸部の広い範囲から14人を雇用し、ガラスハウス1ヘクで大玉トマトを2万3000本栽培。周年出荷の作付け体系を取り入れ、いわき地区のトマト農家で作る地域ブランド「サンシャイントマト」として、福島県本部を通じ販売しています。

3月にJGAP認証を取得。栽培体系を見直し、10アール当たりの収量30トを目指します。青木社長は「生産を安定させ、地域農業の復興・復旧に貢献していきたい」と、力強く話します。



全農東北6県本部の若手職員で構成

県域越え商品開発、情報発信

東北6県本部が県域の垣根を越えて、産地間連携や地域ブランドの推進など単県ではできない取り組みを行うプロジェクトとして2015（平成27）年に設立されました。全農東北6県本部の若手職員で構成し、地元企業と連携して東北産品のプロモーションや商品開発、ブランディングなどを行っています。

設立6年目となる2020（令和2）年度はコロナ禍の影響を受けながらも、花き生産者応援に向けた「東北六花」の販売とクラウドファ

ンディング開設、日本酒消費拡大に向けたInstagramからの情報発信、日比谷花壇と連携した「東北のお花を飾ろうプロジェクト」の展開、仙台スイーツ&カフェ専門学校とのメニュー開発、みのりみのるマルシェ（銀座三越）への出展に取り組みました。

今後も関係部署や地元企業との連携を深め、基軸となる販売・プロモーション・商品開発を継続します。



みのりみのるマルシェ（銀座）で開いた「東北6県大収穫祭」



東北六花（小）



東北六花



Instagramで日本酒をPR



若手農業者の言葉が勇氣と奮起の原動力

全農経営管理委員会 高橋正副会長

あの日、立ち続けているこ

とができない激震が3分以上続いた。防災無線から「至急、避難せよ」の指示、1時間後15分強の津波が町全域を襲った。小雪が降りしきる中、夜中までサイレンだけが鳴り響き、余震の恐怖に震えながら車座で一夜を過ごした避難所から見た気仙沼市の夜空は、真っ赤に染まっていた。

翌朝、私はがれきをかき分け本店がある南三陸町志津川を目指した。周辺の異様な景色を目の当たりにし茫然自失。建物は全て流失し立ちすくむことしかできなかった。まさに

地獄絵図そのものであった。

当時、私はJA南三陸(現…JA新みやぎ南三陸地区本部)組合長。事務所も電気も書類もない。多くの職員が被災し連絡も取れない。不十分な体制の下でも災害対策本部の指揮を執らなければならぬ。連日、緊急車両への給油支援、避難所への食料提供、被災家畜への飼料配送などに追われる日々が続いた。

発災日、気仙沼市の避難所で若手イチゴ生産者に出会った。壊滅的な被害を受けたにも関わらず「もう一度、農業にリベンジしたい!イチゴ産地づくりを諦めたくない!」という言葉に驚嘆。この言葉が私に勇氣と奮起させる原動力を与えてくれた。いまではこのイチゴ生産者をはじめ、水稲、菊、小松菜など若手農業者が中心となり先進的な「南三陸型農業」の復興を牽引している。将

来を見据えた創造的復興が実現しつつあるのだ。

4年後、安倍総理が当JAを訪れた時、「このJAの若手生産者の頑張りには驚いた」と言ってくれた。あの日から10年。あらためて、この若者らに感謝したい。



安倍晋三総理に復興状況を説明する高橋組合長(当時、左)2015年

2011年入会職員 10年を振り返る

東日本大震災が起きた2011年に入会した全農職員に復興を体験した10年を振り返り、それぞれの思いを語ってもらいました。

岩手県本部

復興支援、消費者の応援実感

米穀部米穀販売課
ふじわら やすふみ
藤原靖史さん

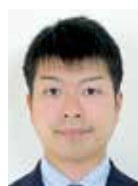


純情米販売課に配属され受け渡し業務を担当しました。地震でラック倉庫のフレコンも落下して大破。状況を説明し、フレコンの糸くずが混入した状態で販売しました。大阪駐在時は店頭販売で「放射能は大丈夫なのか」と聞く人もいましたが、復興支援と聞いて来店された方もいて、応援していただいていることを感じました。今では風評被害も落ち着いたと思います。岩手は米、園芸、畜産を複合的に経営する農家も多いので、もっと視野を広げて、農家の力になれるよう頑張っていきたい。

宮城県本部

応援してくれる消費者が励み

株式会社パールライス宮城
営業部業務課(出向)
しらい よしゆき
白井克幸さん



米穀課に配属され受け渡し業務を担当しました。地震で米倉庫のはい崩れが起こり、全国の皆さんに直していただいたこと今でも感謝の念に堪えません。その年の秋からは放射能問題で、検査済みの安全なおいしいお米でも消費者や実需者の方の「安心」にならないもどかしさを感じましたが、その後理解が広がり、応援していただく声が増えていったことを覚えています。今は精米販売担当として、多くの人に「うまさにいちず」なみやぎ米を届けたいと思っています。

福島県本部

安全性伝え 消費者理解に尽力

園芸部園芸資材課
おおたけ ふみたか
大竹史孝さん



園芸センターに配属され、果実の出荷などを担当しました。当時は消費者から「本当に食べられるのか?」との問い合わせもありました。消費地販売部(東京)では消費者の不安や風評を実感しましたが、安全性を伝え理解してもらえるよう努めました。徐々に販売先が増えていたので、やってきた甲斐があったなと感じています。震災前の生産量には戻っていませんが、今は園芸資材を担当しているので、販売、資材両面から提案し、園芸振興につなげたいと思います。

News!



畜産総合情報サイト「JACCネット」を刷新

スマートフォンなどからでも見やすく

畜産生産部



リニューアルした JACC ネットのトップページ

畜産総合情報サイト
「JACC ネット」
はこちら →



JACC ネットでは、配合飼料・海外原料・粗飼料・畜産物・素牛^{もとうし}などの畜産関連情報や、飼料・資材・サービスのご案内などを発信しています。リニューアルした JACC ネットは、スマートデバイスに対応し、スマートフォンなどからでも見やすくなりました。

また、会員サイトをなくし、これまで会員限定としていた「肉牛枝肉共励会情報」を誰でも見られるようにしました。さらに、「畜産生産部企画研修会」のページから研修の申し込みを受け付けています。

今後も畜産関係者の皆さまに役立つ情報を発信していきますので、ぜひご活用ください。

畜産生産部は3月1日、畜産総合情報サイト「JACC ネット」をリニューアルしました。サイト内の情報整理と操作性の向上を図り、畜産生産者やJAグループ関係者が利用しやすいサイトに刷新しました。

ジャック

News!



山形県産「啓翁桜」を世界へ2カ国語の動画で魅力PR

最大の需要期「春節」に向け出荷に追われる

山形県本部

輸出する啓翁桜の出荷作業



「啓翁桜」の海外輸出は2014年から始まりました。冬に咲く桜として海外でも年々知名度が向上している中、山形県産はその品質の良さから高く評価されています。輸出先では花き販売店の取り扱いの他、飲食店の店内装飾としても人気があります。

今年は1月12日のロシア向けを皮切りに、3月末まで中国（香港・マカオを含む）、シンガポール、ロシア、インドネシア、フィリピンの7地域へ計8000本の出荷を予定しています。

山形県本部が取り組んでいる県産「啓翁桜」の海外輸出が、中華圏の旧正月「春節」を迎える2月上旬に最盛期を迎えました。今年は新型コロナウイルスの影響で海外でのPRイベントを実施できないため、ホームページに英語・広東語の字幕が付いた「啓翁桜」の紹介動画を公開しています。

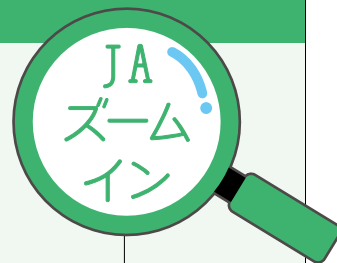
山形県本部は今後もJAや関係機関と協力し、生産量日本一の誇りをもって県産「啓翁桜」をPRしていきます。

山形県本部ホームページに掲載している英語・広東語の字幕付きの「啓翁桜」紹介動画



動画は
こちらから





JA組織、行政と連携し担い手育成

修了生の20人が新規就農

JA福山市は、冷涼な中国山地沿いから温暖な瀬戸内海沿岸の島しょ部までをエリアとし、福山市、府中市（上下町を除く）、神石高原町で構成される広域JAです。山と海を擁する自然豊かな気候条件を生かして、クワイやブドウ、トマトなどの生産が盛んです。

JA独自に担い手育成協議会を設立

同JAでは、約10年前から生産者の高齢化に伴う、生産基盤の弱体化に歯止めをかけるため、担い手の育成強化に取り組んでいます。新規就農者の募集は、同JAが担い手育成協議会な



新規就農へ現地指導。トマト(上)とホウレンソウの圃(ほ)場で

どを設立し、生産組織や県市町、JA系統組織と連携を図っています。就農相談者にはまず、会社員との違い、自身が経営者になること、天候の影響を受けやすいことなどを説明し、就農のイメージをつかんでももらいます。その後、協議会で面接を行い、就農への意欲と決意を見極めるとともに、自覚を高めてもらいます。

研修では、現地指導と座学研修を行います。現地指導は、生産組織の長や大規模生産者、座学研修はJAや行政が担っています。同JAでは、次世代人材投資事業の研修機関登録を行い、総合的な研修体制を構築するとともに、各生産組織の研修生による合同研修会を開

JA福山市(広島県)



ブドウの新規就農研修

催しています。共通する技術や経営研修に加え、情報交換を行うことで、切磋琢磨できる環境を提供しています。

新規就農者の経営安定へ3年間、資材・施設に助成

また、就農地については、可能な限り協議会内で農地情報を共有し、高齢化などで離農される農地や施設を

継承しています。早期の安定経営を支援するためJA独自の「農業振興支援事業」を創設し就農から3年間、農機具や肥料・農薬・資材の他、施設へ助成を行っています。また、就農後はTAC活動として広島県本部と連携し、課題を聞き取り改善に向け、営農計画へ反映させています。今年度は、管内の特産である、クワイ、イチジク、ホウレンソウ、ブドウ、柿、アスパラガス、トマトで新規就農者研修を実施し、16人が参加しました。過去3年間で研修を修了した20人が産地の担い手として活躍するなど、着実な営農振興と地域農業の活性化につながっています。

概要 令和2年3月31日現在	
正組合員数	2万7558人
准組合員数	5万6879人
職員数	1010人
販売品取扱高	25億1千万円
購買品取扱高	26億9千万円
貯金残高	8064億7千万円
長期共済保有高	1兆4312億5千万円
主な農産物	クワイ、ブドウ、トマト



「華やかな、春のはじまり。苺フェア」を開催

3月18～31日、直営飲食店舗で提供

全農は全国の直営飲食店舗7店舗で3月18日(木)～31日(水)の間、全国のいちご主産県とのコラボレーション企画「華やかな、春のはじまり。苺フェア」を開催します。
【フードマーケット事業部】

今回のフェアでは高い人気を誇る4ブランド、宮城県産「もういっこ」、栃木県産「とちおとめ」、福岡県産「あまおう」、長崎県産「ゆめのか」が登場。店舗ごとにイチゴそのもののおいしさを生かしたオリジナルスイーツやドリンクメニューを提供します。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

【メニュー提供概要】

期間 令和3年3月18日(木)～年3月31日(水)

実施店舗 7店舗

●みのるダイニング札幌店(栃木県産とちおとめ) ●みのりカフェエスパル仙台店(宮城県産もういっこ) ●グリルみのるエスパル仙台店(宮城県産もういっこ) ●みのりカフェ三越銀座店(福岡県産あまおう) ●みのる食堂三越銀座店(長崎県産ゆめのか) ●みのりカフェエキ広島店(福岡県産あまおう) ●みのりカフェ福岡天神店(福岡県産あまおう)

共催：いちご主産県情報交換会

Webサイトはこちら



栃木県産「とちおとめ」のイチゴパフェ(みのるダイニング札幌店)

全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

毎週土曜日13時～ TOKYO FM系列38局ネット

3月20日放送のプレゼントは、「京野菜 おためしセット 6種類程度」です。京野菜は気候・風土に適した、特異な形や優れた品質を持つ野菜として、1000年以上昔から伝えられてきました。農家さんが愛情込めて作った新鮮でご家庭でも使いやすい京野菜をお届けします。京都の市場から旬の物を6種類程度詰め合わせるので、中身は届いてからのお楽しみ。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。
【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは3月20日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

この商品はここからご購入いただけます。

JAタウン
ショップ名

JA全農京都



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

西のおいしさこだわりマルシェ

びほうらん

美豊卵は産卵鶏では数%しかいない純国産鶏「もみじ」から産まれた卵です。卵は、鶏が食べる餌や飲む水がそのまま味や品質に反映されます。「もみじ」は、自家製発酵飼料と独自に処理された飲料水によって健康に育てられ、濃厚で黄身が大きい卵を産んでくれます。

「鶏」「水」「餌」にこだわりを持った安心・安全なおいしい卵を、愛媛県からお届けします。



美豊卵(M～Lサイズ・40個入り)……2580円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。